



## よりよい社会ネットワークを求めて

研究者所属・職名：政治経済学術院 教授

ふりがな      とどう      やすゆき

氏名： 戸堂 康之

主な採択課題：

- [新学術領域研究\(研究領域提案型\)「経済発展に資する社会ネットワークの多様性を阻む要因に関する政治経済分析」\(2013-2017\)](#)
- [基盤研究\(A\)「ネットワークの多様化が経済と心理に及ぼす影響－計量・行動経済学と理系の融合研究－」\(2018-2022\)](#)

分野：経済政策

キーワード：ネットワーク、経済発展、経済の強靱性、保護主義、閉鎖性

## 課題

- **なぜこの研究をおこなったのか？（研究の背景・目的）**  
個人や企業はつながってネットワークを形成しています。そして、そのつながりのあり方によって（例えば、集団内で密接につながるとか、異質な「よそ者」とつながるとか）、経済的なパフォーマンスが異なってきます。私たちは、どのようなネットワーク構造が経済の発展や強靱性に寄与するのか、そしてそのようなネットワーク構造はどのようにして構築できるのかについて、データを用いて分析しました。
- **研究するにあたっての苦労や工夫（研究の手法）**  
私たちは、グローバル・サプライチェーンや国際共同研究による企業ネットワーク（図1）や開発途上国における農民や零細の社会ネットワークなど、様々なネットワークを対象にデータ分析を行っています。また、その研究手法は学融合的で、応用ミクロ計量経済学、ネットワーク科学、シミュレーション科学、行動経済学、社会実験など様々な手法を利用しています。

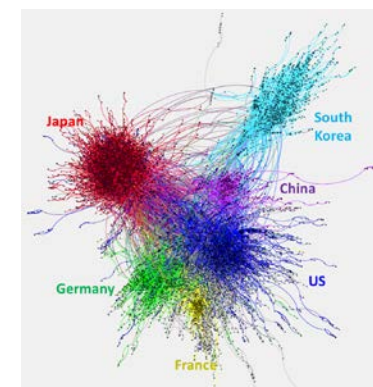


図1 企業の共同研究ネットワーク

## よりよい社会ネットワークを求めて

### 研究成果

#### ●どんな成果がでたか？どんな発見があったか？

日本企業のサプライチェーン、グローバルな共同研究ネットワーク、インドネシア農村の社会ネットワークのいずれにおいても、地域外の「よそ者」とのつながりによって企業や農民のパフォーマンスが向上することがわかりました。これは、よそ者につながることで、新しい情報や知識を得ることができるからだと考えられます。このように、地域を越えたつながりがあると、災害などによってある地域が経済的に被害を受けると、それがネットワークを通じて多くの地域に波及してしまいます（図2）。とは言え、よそ者ともつながって多様性のあるネットワークを構築していれば、災害時に支援を受けたり、代替取引先を見つけることができたりするために、むしろ災害に対して強靱であることもわかりました。

人間のもつ閉鎖的な本能のために、よそ者につながることは簡単ではありません。しかし、私たちの研究では企業が基本的には同じような属性を持つ者同士でつながっているものの、異質な企業とつながろうとする企業が存在することも明らかにしています。これは、私たちが閉鎖的なだけでなく、新しい知識を求めてよそ者につながろうとする性質も持っていることを示しています。

さらに、社会実験によってインドネシア農民に地域外で農業研修を受けさせたところ、村外の知り合いが増えました。つまり、社会交流によってよそ者とのつながりを構築することができるのです。

つまり、私たちの研究は、よそ者ともつながった多様なネットワークが経済発展や強靱性に寄与すること、また社会交流によって多様なネットワーク構築が可能となることを示したのです。

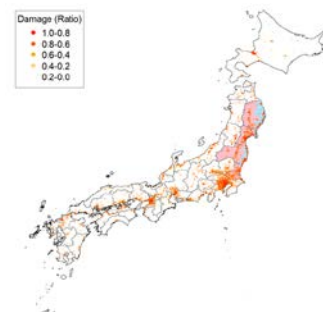


図2 東日本大震災  
20日後の企業の  
生産減少の様子  
(濃い色が大幅に生産  
を減少している企業)

### 今後の展望

#### ●今後の展望・期待される効果

現在、世界的に保護主義が台頭し、グローバル化が停滞しています（図3）。これは、よそ者とのつながりが経済発展を促すことを考えれば、憂慮すべきことです。今後は、人間の持つ本能的な閉鎖性を越えてよそ者とのつながりをつくるにはどのような政策的介入が有効か、どのようなネットワーク構造の下で閉鎖性が強化されやすいのかについて明らかにし、世界経済の発展や安定に貢献していきたいと思っています。

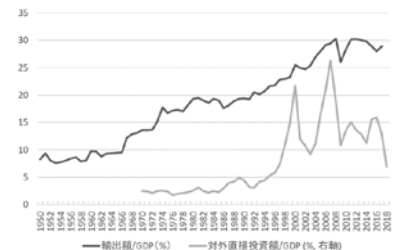


図3 世界の輸出と対外直接投資